

授業概要

戦後の冷戦下でアメリカは、西側世界の盟主として、社会主義体制への軍事的・経済的な対抗をおこなってきました。西ヨーロッパは、E E C / E C / E U と地域統合を深化させてきました。とくに、アメリカは、対ソ軍事的優位を維持するために軍事技術開発に専念し、日独がアメリカを経済的に支えました。

1991年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終結するとアメリカは、ドル体制の維持のために、資産バブルなどによる経済成長を目指しました。ヨーロッパでは、ユーロを導入してアメリカに対抗しています。

本講義では、アメリカ経済の特徴を明らかにした上で、とくに、戦後のドイツ経済について日本との比較で詳しく検討します。

授業計画

第1回	講義の概要
第2回	戦後のアメリカの経済
第3回	アメリカ・ドル危機の進行
第4回	アメリカの金融ビッグバン
第5回	2000年代初頭の欧米の資産バブル
第6回	世界経済危機の勃発
第7回	EUの統合
第8回	ヨーロッパでのユーロの導入
第9回	脱原発のドイツ
第10回	ドイツの教育
第11回	戦後のドイツ経済
第12回	ドイツの社会的市場経済
第13回	ドイツの戦争責任
第14回	ヨーロッパのドイツ
第15回	日独経済比較
第16回	期末試験

到達目標

欧米の戦後の経済発展を理解したうえで、ドル体制の変遷、ユーロ導入のプロセス、ユーロ対ドルの対抗について理解してもらうことを到達目標とします。さらに、戦後のドイツ経済の特徴を様々な側面から明らかにし、日本の進むべき道を考えてもらいます。

履修上の注意

現実の欧米経済について講義しますので、新聞などをよく読んでください。30分以上の遅刻は欠席とし、30分以内の遅刻二回で欠席一回とします。

予習復習

講義の予習・復習をしてください。そうしないと、講義の内容がわからなくなることもありますので、注意してください。

評価方法

出席と期末試験によって総合的に評価します。

テキスト

相沢幸悦「よみがえる日本、帝国化するドイツ」水曜社、2015年